

第7章 その他の取引

学習に時間のかかる論点は、前章までで学習済みになりました。本章では、3級の範囲で学習すべきその他の論点を取り扱います。

先日付小切手
小口現金
商品券
現金過不足
当座借越
未収金と未払金
立替金
仮払金・仮受金
預り金
貸付金と借入金
手形貸付金と手形借入金
株式会社の設立と剰余金の配当
引出金
訂正仕訳
伝票会計

1. 先日付小切手

小切手は、振出日を含めて11日以内に銀行に呈示して資金化されることが予定されており、換金性が高いことから、受け取った小切手は「現金勘定」で処理するのが通常です。これに対し、もう少し先まで資金化を待つて欲しい場合に振り出すのが「先日付小切手」です。資金化できるのが先になるため、受け取った小切手は「受取手形勘定」で処理します。振出した側は通常通り、振出日に当座預金勘定を減少させます。

〔先日付小切手〕

AKB1234		小 切 手		東京 1301 0007-003
支払地	東京都新宿区			
	株式会社 星空銀行 本店			
	金額	¥ 50,000 ※		
上記金額をこの小切手と引換えに 持参人へお支払い下さい				
拒絶証書不要				
振出日	20X6年 6月16日			
振出地	東京都	振出人	株式会社 I 牛乳 代表取締役 牛乳 花子 (印)	

1. 受け取った場合

小切手 →

先日付小切手

→

2. 振り出した場合

今日はまだ6月3日なのに、振出日が6月16日になっているような場合に、「先日付小切手」という。

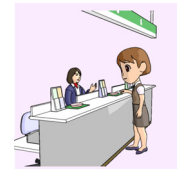
先日付小切手は、当事者間の約束で日付が先延ばしされているだけなので、約束を破って、所持人が銀行に持参して取立依頼すれば、銀行はそれに応じることになります。

2. 小口現金

少額の支払い、例えば消耗品の購入等について、小口現金を利用している場合の処理です。

2-1 定額資金前渡法（インプレスト・システム）

- (1) 会計係が小口現金を管理する用度係（小払係）に小切手を渡し、用度係がこれを現金化する。



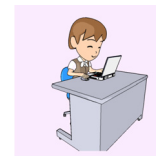
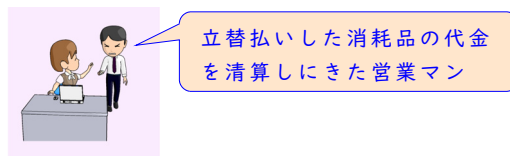
- ① 会計係が5万円（1週間分）の小切手を用度係に振り出す。

- ② 用度係が小切手を取引銀行で5万円の現金にする。

(1)①で会計係が行った仕訳

(借)	(貸)
-----	-----

- (2) 用度係が日々の小口払いを行い、その取引を小口現金出納帳に記帳する。



- ① 用度係が日々の小口払いを行う。

- ② 小口現金出納帳に記帳する。

- (3) 用度係が小口現金出納帳に記帳された1週間分の取引をまとめ、会計係に報告する。



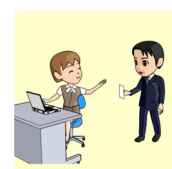
支出明細			
旅費交通費	7,800	消耗品費	12,600
通信費	4,200	雑費	4,400



- ① 用度係が1週間分の小口払いを支出明細にまとめる。

- ② 支出明細を会計係に報告する

- (4) 会計係が支出明細の内容を仕訳し、使った小口現金と同額の small 切手を振り出して用度係に渡す。



- ① 会計係が1週間分の仕訳を行う。

- ② 会計係が使った分を補充するため、29,000円の小切手を用度係に振り出す。

(4)①の段階で会計係が行った仕訳

(借)	(貸)
-----	-----

(4)②の段階で会計係が行った仕訳

(借)	(貸)
-----	-----

2-2 小口現金出納帳の作成

重要

次に、用度係が記入した「小口現金出納帳」の記帳を行ってみましょう。減少した小口現金の金額だけ会計係が小切手を振り出して補充しますが、そのタイミングが週初め（月初め）なのか、週末（月末）なのかによって、週初補給制（月初補給制）と週末補給制（月末補給制）の2通りの記帳方法があります。

週初補給制（月初補給制）

（ここでは、7/8～14までの1週間を主な考察対象としています）

小口現金出納帳

受 入	日付	摘 要	支 払	内 訳			
				旅費交通費	通信費	消耗品費	雑 費
10,000	7/8	前週繰越					
50,000	"	本日補給					
	9	文 房 具	12,600			12,600	
	"	タ ク シ ー 代	900	900			
	10	郵 便 切 手 代	4,200		4,200		
	11	町 内 会 費	4,400				4,400
	12	阪急電鉄回数券	6,900	6,900			
	"	合 計	29,000	7,800	4,200	12,600	4,400
	"	次週繰越	31,000				
60,000			60,000				
31,000	7/15	前週繰越					
29,000	"	本日補給					

週末補給制（月末補給制）

（ここでは、7/8～14までの1週間を主な考察対象としています）

小口現金出納帳

受 入	日付	摘 要	支 払	内 訳			
				旅費交通費	通信費	消耗品費	雑 費
60,000	7/8	前週繰越					
	9	文 房 具	12,600			12,600	
	"	タ ク シ ー 代	900	900			
	10	郵 便 切 手 代	4,200		4,200		
	11	町 内 会 費	4,400				4,400
	12	阪急電鉄回数券	6,900	6,900			
	"	合 計	29,000	7,800	4,200	12,600	4,400
29,000	"	本日補給					
	"	次週繰越	60,000				
89,000			89,000				
60,000	7/15	前週繰越					

3. 商品券

デパートでは、商品券を利用して商品を購入することができます。利用できるのは、そのデパートが発行した商品券の他にも、例えば、信販会社が発行している商品券（ex. 三井住友カードが発行しているV J Aギフトカード）などがあります。簿記では、前者を「当店商品券」、後者を「他店商品券」と呼びますが、3級の試験範囲から「当店商品券」の会計処理が除外されています。従って、ここでは、「他店商品券」を学習しますが、その名称が「受取商品券」に変更されています。

(1) Fデパートは、40,000円の商品を売上げ、他店が発行した商品券で受け取った。

(借方)		(貸方)	
------	--	------	--

(2) 上記(1)の商品券を精算し、同額の現金で受け取った。

(借方)		(貸方)	
------	--	------	--

3級で使用する勘定科目について

日商検定では、仕訳問題で使用する勘定科目について、2種類の勘定科目を公表しています。一つは「標準的な」勘定科目で、もう一つは「採点上許容される」勘定科目です。

例えば、標準的な勘定科目が「従業員預り金」で、採点上許容される勘定科目が「預り金」とされています。

最近、3級の試験範囲に加わった主な勘定科目は次のとおりです。

1. 当座預金〇〇銀行、普通預金〇〇銀行、定期預金〇〇銀行
2. クレジット売掛金
3. 電子記録債権・電子記録債務
4. 役員貸付金・役員借入金
5. 貯蔵品
6. 受取商品券
7. 差入保証金
8. 仮払消費税・仮受消費税・未払消費税
9. 仮払法人税等・未払法人税等
10. 未払配当金
11. 利益準備金
12. 繰越利益剰余金
13. 法定福利費
14. 諸会費
15. 法人税、住民税及び事業税

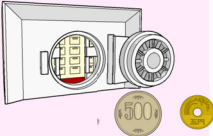
最近、3級の試験範囲から除外された主な勘定科目は次のとおりです。

1. 有価証券・有価証券売却益・有価証券売却損・有価証券利息・受取配当金
2. 消耗品
3. 商品券（当店発行の場合）
4. 引出金
5. 手形売却損

4. 現金過不足

現金を適切に管理するためには、金庫に入っている通貨と通貨代用証券の合計額が帳簿上の現金残高と一致しているか、定期的に検証する必要があります。その検証を毎月末行っている会社もあれば、半年に一回、あるいは年に1回しか行わない会社もありますが、いずれにせよ必ずその差異の把握は行われます。そして、その差異を「現金過不足勘定」に振り替えた上で、差異の原因を分析し、必要に応じて仕訳を行い調整します。それでもなお、原因不明の差異が残る場合には、現金過不足勘定から「雑収入勘定」又は「雑損失勘定」に振り替えて処理を終えます。

実際有高 < 帳簿有高 のケース



実際有高

金庫にある通貨 + 通貨代用証券 = 246,505円

帳簿有高			
現金			
4/8	資本金	200,000	2/28 給料 120,000
12/15	売上	180,000	
			残高 260,000円

- (1) 金庫にある現金を調査したところ、実際有高は 246,505円であった。帳簿有高は 260,000円であり、13,495円不足していた。

(借方)		(貸方)	
------	--	------	--

- (2) 不足額の原因を調査したところ、保険料の記帳もれが 12,000円あることが判明した。

(借方)		(貸方)	
------	--	------	--

- (3) 原因不明の 1,495円については、雑損失に振り替えた。

(借方)		(貸方)	
------	--	------	--

実際有高 > 帳簿有高 のケース

- (1) 金庫にある現金を調査したところ、実際有高は 276,505円であった。帳簿有高は 260,000円であり、16,505円超過していた。

(借方)		(貸方)	
------	--	------	--

- (2) 超過額の原因を調査したところ、売掛金回収の記帳もれが 13,000円あることが判明した。

(借方)		(貸方)	
------	--	------	--

- (3) 原因不明の 3,505円については、雑収入に振り替えた。

(借方)		(貸方)	
------	--	------	--

5. 当座借越

自己の当座預金口座の残高が不足している場合に、振り出した小切手が不渡りとならないように、あらかじめ銀行との間で当座借越契約を結び、一定の限度額までは、当座預金口座がマイナスになっても、振り出した小切手の出金ができるようになっています。当座預金口座の預入れと引出しについての処理方法には、「当座勘定」のみで処理する一勘定制と、「当座預金勘定」及び「当座借越勘定」で処理する二勘定制の2通りの方法があります。

5-1 一勘定制・・・「当座勘定」のみで処理する方法

- (1) F 商店への買掛金 100,000円を支払うために小切手を振出した。このときの当座預金残高は 60,000円であったが、当商店は取引銀行と借越限度額 500,000円の当座借越契約を結んでいる。

(借方)		(貸方)	
------	--	------	--

当 座	
60,000円	100,000円



当座勘定はマイナスになっても構わないのよ。

- (2) F 商店は売掛金 200,000円を他店振出小切手で回収し、直ちに当座預金に預入れた。

(借方)		(貸方)	
------	--	------	--

5-2 二勘定制・・・「当座預金勘定」及び「当座借越勘定」で処理する方法

- (1) F 商店への買掛金 100,000円を支払うために小切手を振出した。このときの当座預金残高は 60,000円であったが、当商店は取引銀行と借越限度額 500,000円の当座借越契約を結んでいる。

(借方)		(貸方)	
------	--	------	--

当座預金	
60,000円	60,000円

当座借越

40,000円



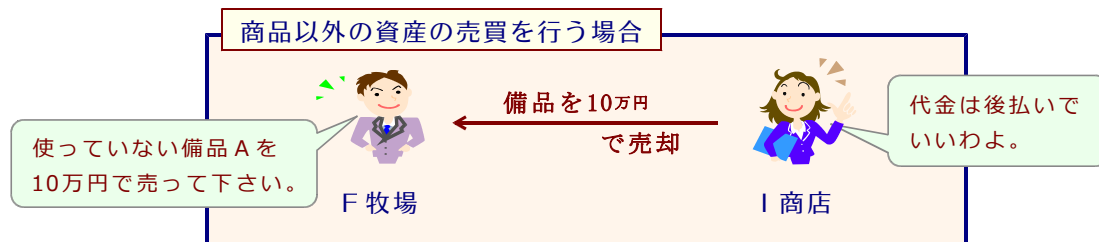
当座預金勘定のマイナスはダメ！
当座借越勘定を使ってね。

- (2) F 商店は売掛金 200,000円を他店振出小切手で回収し、直ちに当座預金に預入れた。

(借方)		(貸方)	
------	--	------	--

6. 未収金と未払金

商品売買に伴う債権は「売掛金」、債務は「買掛金」で処理しますが、商品以外の、例えば備品、建物、土地といった資産の売買に伴う債権は「未収金」、債務は「未払金」を利用します。



- (1) I 商店は、期首に簿価 6 万円の備品を取引先の F 牧場に 10 万円で売却した。

I 商店（売却側）の仕訳

(借) / (貸)

F 牧場（購入側）の仕訳

(借) / (貸)

- (2) 後日、備品の売却代金が現金決済された。

I 商店（売却側）の仕訳

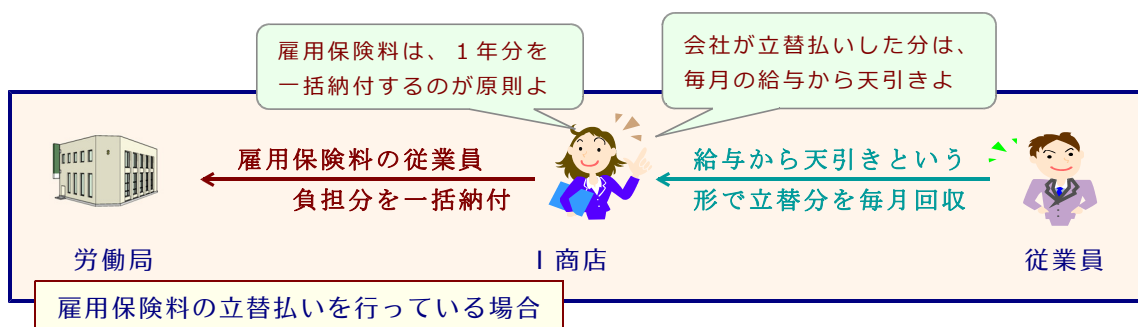
(借) / (貸)

F 牧場（購入側）の仕訳

(貸) / (借)

7. 立替金

3 級の仕訳問題で立替金を使用するのは、発送諸掛かりの立替払いを行った場合（第 2 章 P 6）や、雇用保険料の従業員負担分を会社が立替払いしておいて、その後、立替分を給料から天引きする形で回収する場合等があります。



- (1) 年間の雇用保険料の個人負担分 12 万円、及び会社負担分 24 万円を労働局に現金払いした。

I 商店の仕訳

(借) / (貸)

※ ここでは、他の立替金と区別するために、「従業員立替金」勘定を用いています。

- (2) 従業員給料 30 万円から立替払いした 1 万円（12 万円 ÷ 12 ヶ月）を差し引いて現金支給した。

I 商店の仕訳

(借) / (貸)

※ 実際には、この他に所得税や厚生年金、健康保険等が天引きされます。

8. 仮払金

現金を支出した際に、相手勘定が不明な場合や、金額が確定していない場合に、借方を「仮払金勘定」とします。たとえば、得意先を接待する場合に、10万円を仮払金として支出した上で、後日精算を行って、仮払金勘定を取り消します。



- (1) 得意先を接待するために、従業員 T に10万円の現金を手渡し、仮払処理した。

(借) / (貸)

- (2) 従業員 T より、接待費用として8万円使ったとの報告を受け、残額の2万円を受け取った。

(借) / (貸)

9. 仮受金

詳細が不明な現金を受け取った場合に、貸方を「仮受金勘定」とします。仮受金については、調査を行った上で適切に処理することになります。

- (1) 仕入先から5万円の当座振り込みがあったが、詳細不明のため、仮受処理した。

詳細不明な入金があった場合は、仮受金で処理しておくの。

(借) / (貸)

- (2) 調査の結果、先月の仕入額に対して、仕入先から ※仕入割戻しを受けたことが判明した。

入金理由が判明したら、仮受金勘定をその取引内容を示す勘定科目に置き換えてね。

(借) / (貸)

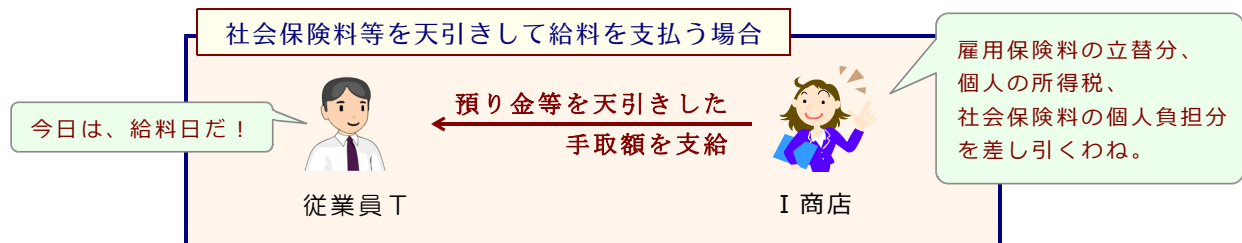
※ 仕入割戻し：大量仕入に伴い、仕入先から受ける値引き

日商では、値引・割戻しは出題されません。

— 当座振込を受けた場合：	当座預金	50,000 / 仕入	50,000
— キャッシュバックを受けた場合：	現金	50,000 / 仕入	50,000
— 買掛金と相殺した場合：	買掛金	50,000 / 仕入	50,000

10. 預り金

「預り金勘定」が最もよく利用されるのは、給料支払時の仕訳です。個人が負担すべき所得税や住民税、あるいは社会保険料の個人負担分を給料から預かり、会社負担分とともに税務署等に支払う仕組みになっています。



- (1) 年間の雇用保険料の個人負担分 12万円、及び会社負担分 24万円を労働局に現金で納付した。

I 商店の仕訳

(借) 福利厚生費	240,000	(貸) 現金	360,000
従業員立替金	120,000		

第7章 P 07 参照

- (2) 従業員Tの給料 30万円から雇用保険料立替分 1万円（月額）のほか、所得税の預り金 3万円と社会保険料の預り金 5万円を差し引いて、現金支給した。

(借) 給料	300,000	(貸) 現金	210,000
		従業員立替金	10,000
		※ 所得税預り金	30,000
		社会保険料預り金	50,000

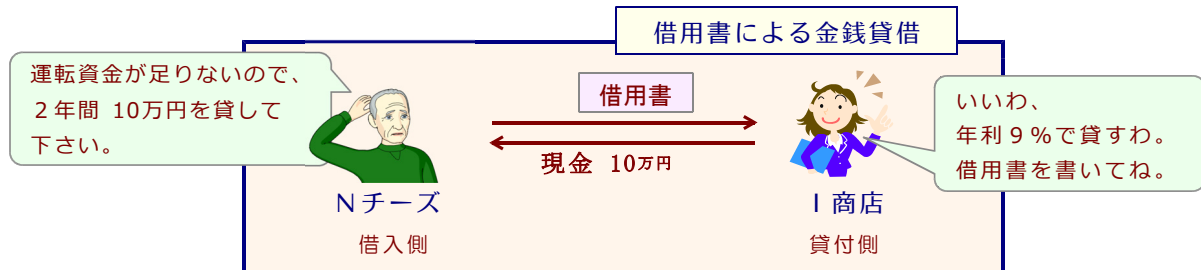
※ 単に、「預り金 80,000円」とすることもあります。

- (3) 従業員Tの給料 30万円から預った8万円のうち、3万円の所得税を所轄税務署に、残りの5万円を会社負担分5万円とともに社会保険事務所に現金で納付した。

(借) ※	所得税預り金	30,000	(貸) 現金	130,000
	社会保険料預り金	50,000		
	法定福利費	50,000		

11. 貸付金と借入金

大型の設備を購入する場合などは、銀行などの金融機関から資金を借りるのが一般的です。また、短期的な運転資金が不足した場合などに取引先から借入を行ったりします。商人間で資金の貸借を行った場合には、利息が発生します。今回は、資金の貸借とそれに伴う利息の処理について学習します。



借 用 書

I 商店
牛乳 花子 殿

収入
印紙
印

1. 私は貴殿より X5年8月1日、金壱拾萬円を借り受けました。
2. 上記借金につき X7年7月31日限り一括にて返済します。
3. 利息は年9%とし、X6年7月31日、及び X7年7月31日を利払日とします。
4. 利払い、及び元本の返済については、指定口座への振り込みとします。

X5年8月1日

住所 東京都杉並区陽光3-3
氏名 Nチーズ
チーズ トム 印

(1) I 商店は、X5年8月1日に年利9%で10万円を取引先のNチーズに貸し付けた。

I 商店（貸付側）の仕訳

(借) / (貸)

Nチーズ（借入側）の仕訳

(借) / (貸)

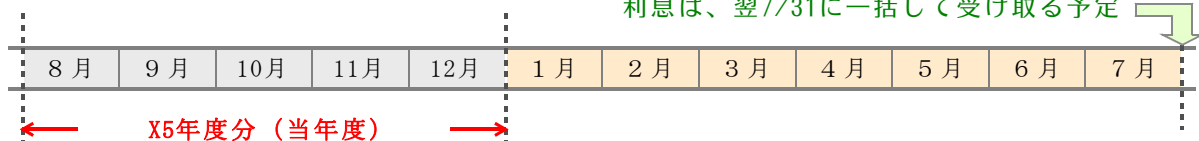
重要

(2) 12月31日となったため、8月初め～12月末までの未収利息を決算整理仕訳として計上した。

期中仕訳のままだと、受取利息が計上されないが、会計では適正な期間損益計算を行うために、現実に利息を受け取ってなくても、当会計年度に帰属する金額を未収計上する必要があります。

$$\text{未収利息} = 100,000 \times 9\% \times \frac{5\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = 3,750$$

利息は、翌7/31に一括して受け取る予定



I 商店（貸付側）の決算整理仕訳

(借) 未収利息 3,750 / (貸) 受取利息 3,750

Nチーズ（借入側）の決算整理仕訳

(借) 支払利息 3,750 / (貸) 未払利息 3,750

(3) X6年1月1日に未収利息について再振替仕訳を行った。

重要

未収利息や未払利息といった未収収益や未払費用、あるいは第8章で学習する前払費用や前受収益のことを「経過勘定項目」といいます。この経過勘定項目については、前年末に行った決算整理仕訳の逆仕訳（＝再振替仕訳）を当年度の期首に行います。これにより、期首B/Sに計上されていた経過勘定項目の残高をゼロとすることができるとともに、前年度に帰属する損益を当年度の期間損益計算から排除し、当年度の期間損益計算を適正化することができます。

I 商店（貸付側）の再振替仕訳

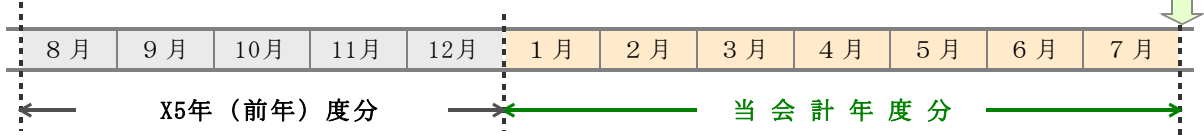
(借) 受取利息 3,750 / (貸) 未収利息 3,750

受取利息	未収利息
	前繰 3,750

7月末に利息を受け取れば、未収は解消されるので、あらかじめゼロにしておく。

7月末に受け取る12ヶ月分の利息のうち、5ヶ月分は前年度分なので、あらかじめマイナス計上しておく。

利息は、7/31に12ヶ月分の $100,000 \times 9\% = 9,000$ 円を一括して受け取る。



(4) X6年7月31日にNチーズから普通預金口座に利息が9,000円振り込まれた。

I 商店（貸付側）の仕訳

(借) 普通預金 9,000 / (貸) 受取利息 9,000

受取利息
前8/1～ 前12/31分 (3) 3,750
前8/1～ 当7/31分

Nチーズ（借入側）の仕訳

(借) 支払利息 9,000 / (貸) 現金 9,000

支払利息
前8/1～ 当7/31分
前8/1～ 前12/31分 (3) 3,750

(5) X6年12月31日となったため、決算整理仕訳を行って5ヶ月分の受取利息を未収計上した。

I 商店（貸付側）の決算整理仕訳

(借) 未収利息 3,750 / (貸) 受取利息 3,750

受取利息	未収利息
(3) 3,750 (4) 9,000	前繰 3,750 (3) 3,750

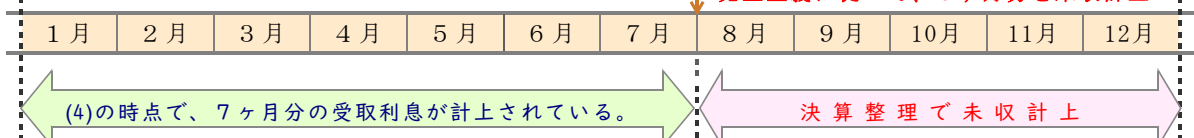
Nチーズ（借入側）の決算整理仕訳

(借) 支払利息 3,750 / (貸) 未払利息 3,750

支払利息	未払利息
(4) 9,000 (3) 3,750	(3) 3,750 前繰 3,750

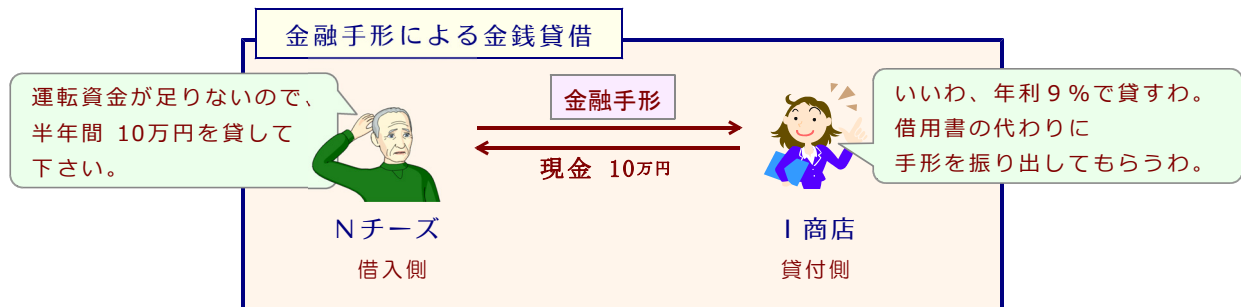
利息は、7/31に1年分を受け取っている。

発生主義に従って、5ヶ月分を未収計上



12. 手形貸付金と手形借入金

お金を借りる人が借用書の代わりに、支払手形を振り出す場合があります。手形を利用した金銭の貸借は昔から利用されている形態です。



- (1) 8月1日に I 商店は、N チーズに年利 9 % で 10万円を貸付け、借用書の代わりに金融手形を受け取った。なお、利息は元本返済時である翌年 1 月末に元本とともに受け取る予定である。

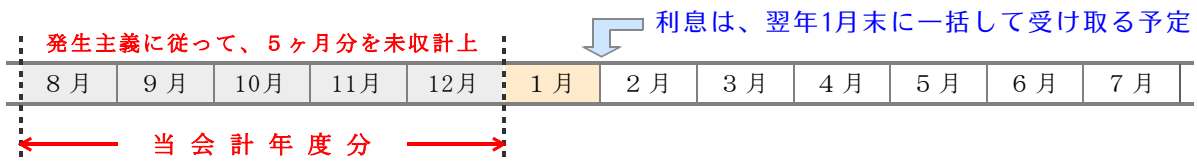
I 商店（貸付側）の仕訳

(借) / (貸)

N チーズ（借入側）の仕訳

(借) / (貸)

- (2) 12月31日となったため、8月初め～12月末までの未収利息を決算整理仕訳として計上した。



$$\text{未収利息} = 100,000 \times 9\% \times \frac{5\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = 3,750\text{円}$$

I 商店（貸付側）の決算整理仕訳

(借) / (貸)

N チーズ（借入側）の決算整理仕訳

(借) / (貸)

- (3) 翌年 1 月 1 日に未収利息について再振替仕訳を行った。

I 商店（貸付側）の再振替仕訳

(借) / (貸)

N チーズ（借入側）の再振替仕訳

(借) / (貸)

- (4) 1月31日に N チーズから普通預金口座に 6 ヶ月分の利息と元本返済額が振り込まれた。

I 商店（貸付側）の仕訳

(借) / (貸)

N チーズ（借入側）の仕訳

(借) / (貸)

受取利息

(3) 3,750

未収利息

前繰 3,750 (3) 3,750

支払利息

(3) 3,750

未払利息

(3) 3,750 前繰 3,750

13. 株式会社の設立と剰余金の配当

13-1. 株式会社の設立

株式会社だけでなく、個人経営の場合でも、商売を始めるにあたっては、「元手」が必要です。株式会社の場合は株式引受人（＝株主）が、個人経営の場合には事業主となる個人が「元手」となる「資本金」を拠出します。資本金の金額には規制がないので、資本金 1 円の株式会社を設立することも可能です。ただし、運営コストのかかる会社形態で事業を行うメリットの一つである社会的信頼性が得られなくなるので、現実的ではありません。また、株式会社の場合、資本金 1 千万円以上で設立すると、開業事業年度から消費税の納税義務が生じるため、資本金 1 千万円未満で設立することが多いです。

設立時の仕訳は、「別段預金」勘定を利用する場合がありますが、3 級では、次の仕訳を想定しておくとい良いでしょう。

株式引受人が 1 株 50,000 円の株式を 60 株引き受け、その全額が甲株式会社の普通預金口座（東京銀行）に払い込まれた。

（借方）		（貸方）	
------	--	------	--

13-2. 剰余金の配当

株式会社は、株主総会決議によって、いつでも株主へ「剰余金の配当」を行うことができます。剰余金の配当は、「繰越利益剰余金」を財源に行われます。



株主総会において、繰越利益剰余金を源泉として 800,000 円の株式配当を行う旨を決議した。

（借方）		（貸方）	
------	--	------	--

（注） 配当を行う際に、配当金の 1/10 ずつ利益準備金を積み立てる必要がありますが（資本金の 1/4 に達するまで）、3 級の範囲外となるので、ここでは考慮していません。

上記決議に従い、株主に 800,000 円の配当を普通預金口座（東京銀行）から出金した。

（借方）	未払配当金	800,000	（貸方）	普通預金東京銀行	800,000
------	-------	---------	------	----------	---------

14. 引出金（参考）

個人商店を営む経営者が、自己の商店のお金を私用に使う場合があります。この際、支出する現金勘定の相手勘定として、「引出金勘定」を用いる方法と、「資本金勘定」を用いる方法があります。期末に、引出金勘定に金額が残っている場合には、資本金勘定と相殺する必要があります。



- (1) I 商店において、経営者が私用で 10,000 円の現金を支出した。

(借) / (貸)

※ 引出金勘定の代わりに、資本金勘定で処理する場合もある。

- (2) I 商店は、光熱費として 30,000 円の現金を支出したが、そのうち 30% は居住用のものである。

(借) / (貸)

※ 引出金勘定の代わりに、資本金勘定で処理する場合もある。

- (3) 会計年度末において、引出金勘定の残高を適正に処理した。

(借) / (貸)

← 決算整理仕訳

※ 期中に、引出金勘定の代わりに、資本金勘定を使用していた場合には、当処理は不要。

(参考)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	十	百	千	万	
壹	貳	参	四	五	(伍)	六	七	八	九	拾	佰	仟	萬

15. 訂正仕訳

誤った仕訳を行ったことが、後日判明する場合があります。このような場合には、誤った仕訳の「逆仕訳」を行ってから、正しい仕訳を行うことになります。

- (1) I 商店において、広告費 45,000円のところ、54,000円と記帳していたことが判明した。

(借) 広告費 54,000 / (貸) 現金 54,000

← 過去の誤った仕訳



まずは、慌てずに逆仕訳を行う。

(借) 現金 54,000 / (貸) 広告費 54,000

← 誤った仕訳の逆仕訳



次に、正しい仕訳を行う。

(借) 広告費 45,000 / (貸) 現金 45,000

← 正しい仕訳



別解

(借) / (貸)

← 2つの仕訳をまとめたもの

- (2) I 商店は、収入印紙 5,000円分を現金で購入し、通信費で処理していたことが判明した。

(借) 通信費 5,000 / (貸) 現金 5,000

← 過去の誤った仕訳



まずは、慌てずに逆仕訳を行う。

(借) 現金 5,000 / (貸) 通信費 5,000

← 誤った仕訳の逆仕訳



次に、正しい仕訳を行う。

(借) 租税公課 5,000 / (貸) 現金 5,000

← 正しい仕訳



別解

(借) / (貸)

← 2つの仕訳をまとめたもの

(1) 仕訳を伝票へ記帳 (伝票 ≡ 仕訳帳)

伝票会計では、伝票を仕訳帳として機能させます。3伝票制では、現金の入金をともなう取引を「入金伝票」へ、現金の出金をともなう取引を「出金伝票」へ、現金の入出金をともなわない取引を「振替伝票」に記入し、伝票をもとに「仕訳日計表」を作成した上で、総勘定元帳の各勘定に転記します。

① 商品を販売し、代金 60,000円は現金で受け取った。

(借) 現金	60,000	(貸) 売上	60,000	→ 入金伝票へ記入
--------	--------	--------	--------	-----------

入金伝票	
(売 上)	60,000 円

② 商品を販売し、代金 60,000円は掛けとした。

(借) 売掛金	60,000	(貸) 売上	60,000	→ 振替伝票へ記入
---------	--------	--------	--------	-----------

振替伝票			
借 (売掛金)	60,000 円	貸 (売 上)	60,000 円

③ 商品を販売し、代金 60,000円のうち 20,000円は現金で受け取り、残額は掛けとした。

通常の仕訳

(借) 現金	20,000	(貸) 売上	60,000
売掛金	40,000		

現金と掛けによる商品売買を同時に行う場合、
3伝票制の処理方法は2種類あるので、
どちらの方法かは指示されるはずよ。



③-1 取引を分解して起票するケース

(借) 現金	20,000	(貸) 売上	20,000	→ 入金伝票へ記入
--------	--------	--------	--------	-----------

(借) 売掛金	40,000	(貸) 売上	40,000	→ 振替伝票へ記入
---------	--------	--------	--------	-----------

入金伝票	
(売 上)	20,000 円

振替伝票			
借 (売掛金)	40,000 円	貸 (売 上)	40,000 円

③-2 全て掛けで販売し、すぐに掛代金の一部が決済されたと仮定して起票するケース

(借) 売掛金	60,000	(貸) 売上	60,000	→ 振替伝票へ記入
(借) 現金	20,000	(貸) 売掛金	20,000	→ 入金伝票へ記入

入金伝票	
(売掛金)	20,000 円

振替伝票	
借 (売掛金)	60,000 円
貸 (売上)	60,000 円

④ 商品を仕入れ、代金 60,000円のうち 20,000円は現金で支払い、残額は掛けとした。

通常の仕訳

(借) 仕 入	60,000	(貸) 現金	20,000
		買掛金	40,000

④-1 一部振替取引については、取引を分解する方法

(借) 仕 入	20,000	(貸) 現金	20,000	→ 出金伝票へ記入
(借) 仕 入	40,000	(貸) 買掛金	40,000	→ 振替伝票へ記入

出金伝票	
(仕 入)	20,000 円

振替伝票	
借 (仕 入)	40,000 円
貸 (買掛金)	40,000 円

④-2 いったん全て掛け取引として取り扱う方法

(借) 仕 入	60,000	(貸) 買掛金	60,000	→ 振替伝票へ記入
(借) 買掛金	20,000	(貸) 現金	20,000	→ 出金伝票へ記入

出金伝票	
(買掛金)	20,000 円

振替伝票	
借 (仕 入)	60,000 円
貸 (買掛金)	60,000 円

(2) 仕訳日計表の作成

日々の取引を伝票記入し、伝票から仕訳日計表、仕訳日計表から総勘定元帳の各勘定口座の記帳を行います。本試験では、ある1日の伝票を資料に与え、伝票からその日の取引を想像させて、仕訳日計表と総勘定元帳を作成させる問題パターンが出題されます。

ここでは、取引 → 伝票 → 仕訳日計表 → 総勘定元帳という一連の流れをみていきます。

1. ある一日の取引（一部振替取引については、取引を分解して起票すること）

- ① 商品を仕入れ、代金 20,000円のうち、15,000円は現金で支払い、残額は掛けとした。

(借) 仕 入	15,000	(貸) 現 金	15,000	→ 出金伝票へ記入
(借) 仕 入	5,000	(貸) 買掛金	5,000	→ 振替伝票へ記入

- ② 商品を販売し、代金 60,000円のうち、20,000円は現金で受取り、残額は掛けとした。

(借) 現 金	20,000	(貸) 売 上	20,000	→ 入金伝票へ記入
(借) 売掛金	40,000	(貸) 売 上	40,000	→ 振替伝票へ記入

- ③ 消耗品 5,000円を購入し、代金は現金で支払った。

(借) 消耗品費	5,000	(貸) 現 金	5,000	→ 出金伝票へ記入
----------	-------	---------	-------	-----------

- ④ 売掛金 32,000円の決済につき、約束手形を受け取った。

(借) 受取手形	32,000	(貸) 売掛金	32,000	→ 振替伝票へ記入
----------	--------	---------	--------	-----------

- ⑤ 売掛金 8,000円を現金で回収した。

(借) 現 金	8,000	(貸) 売掛金	8,000	→ 入金伝票へ記入
---------	-------	---------	-------	-----------

2. 仕訳を伝票に記入

入金伝票	No. 101
売 上	20,000

出金伝票	No. 201
仕 入	15,000

振替伝票	No. 301
仕 入	5,000
買掛金	5,000

入金伝票	No. 102
売掛金	8,000

出金伝票	No. 202
消耗品費	5,000

振替伝票	No. 302
売掛金	40,000
売 上	40,000

振替伝票	No. 303
受取手形	32,000
売掛金	32,000

3. 仕訳日計表の作成

仕 訳 日 計 表 701

借 方	勘 定 科 目	貸 方
28,000	現 金	20,000
32,000	受 取 手 形	
40,000	売 掛 金	40,000
	買 掛 金	5,000
	売 上	60,000
20,000	仕 入	
5,000	消 耗 品 費	
125,000		125,000

4. 総勘定元帳の各勘定へ記帳（一部）

現 金

	摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借 貸	残 高
7 1	前月繰越	✓	123,000		借	123,000
"	仕訳日計表	701	28,000		"	151,000
"	仕訳日計表	"		20,000	"	131,000

仕訳日計表から1日の現金増加額合計
と現金減少額合計をまとめて、転記する。